ンを作る方法を発見した。

これは試験管の中で人間のインシュリン遺伝子を再生してバクテリアに注入し、そこでインシュリンを作らせるというもので、研究者は国立研究所のサラン・ナラン博士。

動物インシュリンは、人間の膵臓が分泌するインシュリンとは蛋白質の化学構造が異なるため、必ずしも理想的とはいえない。しかし合成遺伝子は人間の遺伝子と同じ構造をもっており、それにバクテリアを加えてできるインシュリンも人間のインシュリンと同じ。しかも、動物インシュリンと違って、大量に作れるのがミソだという。

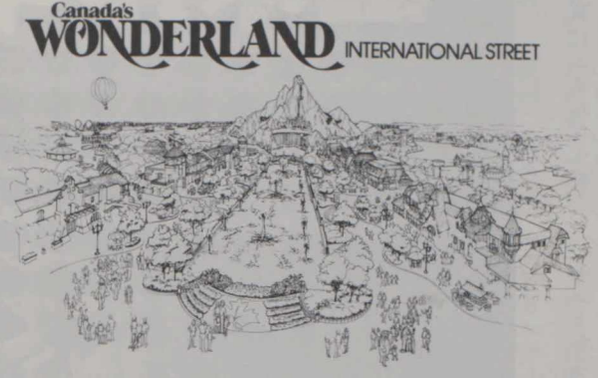
ナラン博士は、すでにインシュリンを得るための三つの遺伝子を作ることに成功し、現在はバクテリア細胞を使って合成インシュリンを作る研究に取り組んでいる。

トロント近郊に大遊園地

トロントの北三十キロのボーガンという町に、世界でも最大級のアミューズメント・パークが建設されることになった。

「カナダのワンダーランド」というこのパークは、三百二十エーカー（約百三十万平方メートル）の広大な敷地に、中世ヨーロッパ風のバビリオン、劇場、各種ゲームセンター、カナダ開拓時代そのままの歴史村、童話・人形館、数数の乗り物、ナイアガラ瀑布を思わせる滝、それにレストランとショッピングのアーケードなどをめぐらせる計画。パークの建設および経営に当るファミリー・レジャー・センター社では、一流のエンタティナーによるショーなど、大人も子供も楽しめる各種のプログラムを組んで、ナイアガラの滝と並ぶ一大観光・娯楽地にしたい考えである。

オープンは一九八一年春の予定。



GNP、六・八%増（一～三月）

今年の第1四半期におけるカナダの実質国民所得は、年率で六・八パーセント上昇した。最近三ヵ年では、最高の上昇率である。昨年第4四半期の上昇率は二パーセントであった。

しかし、石油価格の高騰もあって、今年第2四半期以降はかなり伸び悩むものと思われる。

オイルサンドを共同開発 米加が協定に調印

カナダと米国は、六月はじめ、オイルサンドと重質油の研究開発を共同で進めるための協定に調印した。

協定は埋蔵量八千億バレル（石油換算）と推定されるカナダのオイルサンドおよび米国西部の膨大なオイル・シェールとオイルサンドの共同開発を目指したもので、米国エネルギー省、アルバータ・オイルサンド技術研究局、サスカチュワン州鉱物資源省、それにカナダ政府エネルギー・鉱山・資源省が参加する。

カナダでは、すでにアルバータ州にある二基のオイルサンド工場が合成原油を生産しており、その量はカナダ全体の原油生産量の七パーセントに達するものと見込まれている。そのほか、現在の技術では採取が不可能な深さの地下にあるオイルサンドから重質油（ビチューメン）を回収する実験的プロジェクトが進められている。そのうち、六つのプロジェクトは、アルバータ・オイルサンド技術研究局の一億八千万ドルにのぼる研究開発計画の一環として、また他の三件は連邦政府とサスカチュワン州政府の重質油開発協定の一環として実施されているもの。

また、米国では西部に豊富に存在するオイル・シェール（油母頁岩）から原油を回収する研究を大大的に行なっているし、また埋蔵量約千三百億バレル（石油換算）といわれるオイルサンドにも目をつけている。

米加両国は、協定に基き、まずオイルサンドの化学的・物理的性質を調べ、両国のオイルサンドに関する詳しいデータを集めるという。ビチューメン採取のための技術を開発する第一歩である。

バーネット一等書記官 日本語弁論大会で優勝

六月に東京・有楽町の朝日講堂で開かれた「第二十回外国人による日本語弁論大会」で、カナダ大使館のブルース・バーネット一等書記官（広報・文化担当、写真）が優勝した。演題は「日本人になる方法」。

バーネット氏は、横浜にある米国務省日本語研修所を今夏卒業、休暇でカナダへ帰国したあと、八月末に着任する。

アサヒ・イブニング・ニュース提供

大使館人事

夏は人事異動の季節。当大使館でも、日本在任足かけ十一年というゴーラム公使が本庁のラテン・アメリカ局長として転任していったほか、ワタナベ科学参事官、ラフルー鉱産物・エネルギー担当参事官、バーキンソン商務参事官、バージャー経済担当一等書記官、ダークセン広報担当一等書記官らが帰国し、それぞれ新しい担当官が着任した。ゴーラム公使の後任には、前駐マニラ大使のジョン・A・アーウィン氏が就任した。

イベント

カナダ風景画展＝八月二十八日～九月二日、東京セントラル絵画館（東京・銀座二―七―十八、銀座貿易ビル内）。

毛皮展＝八月二十八日～九月一日、カナダ・トレード・センター（東京・池袋サンシャイン・シティ）

日加会議＝八月三十一日～九月一日、大学セミナーハウス（東京・八王寺）。テーマ「日加関係の展開」。九月三日に朝日新聞社講堂で講演会と映画の夕べ「日加関係とカナダの多文化主義」

日加国交五〇周年記念演奏会＝九月五日午後六時半、東京文化会館小ホール。マリリン・エングル（ピアノ）とチェネク・J・バルバ（バイオリン）によるビバルディ「ソナタ、イ長調」ほか。

懸賞論文＝テーマ「これからの日加関係」「私とカナダ」、締切り九月十五日。主催・日加協会（東京都千代田区永田町二ノ一七ノ三堤フラッツ二〇一号。電話〇三―五八一―〇九二五・一六九四）。

カーペット敷物展＝十月十三日～二十二日、カナダ・トレード・センター。